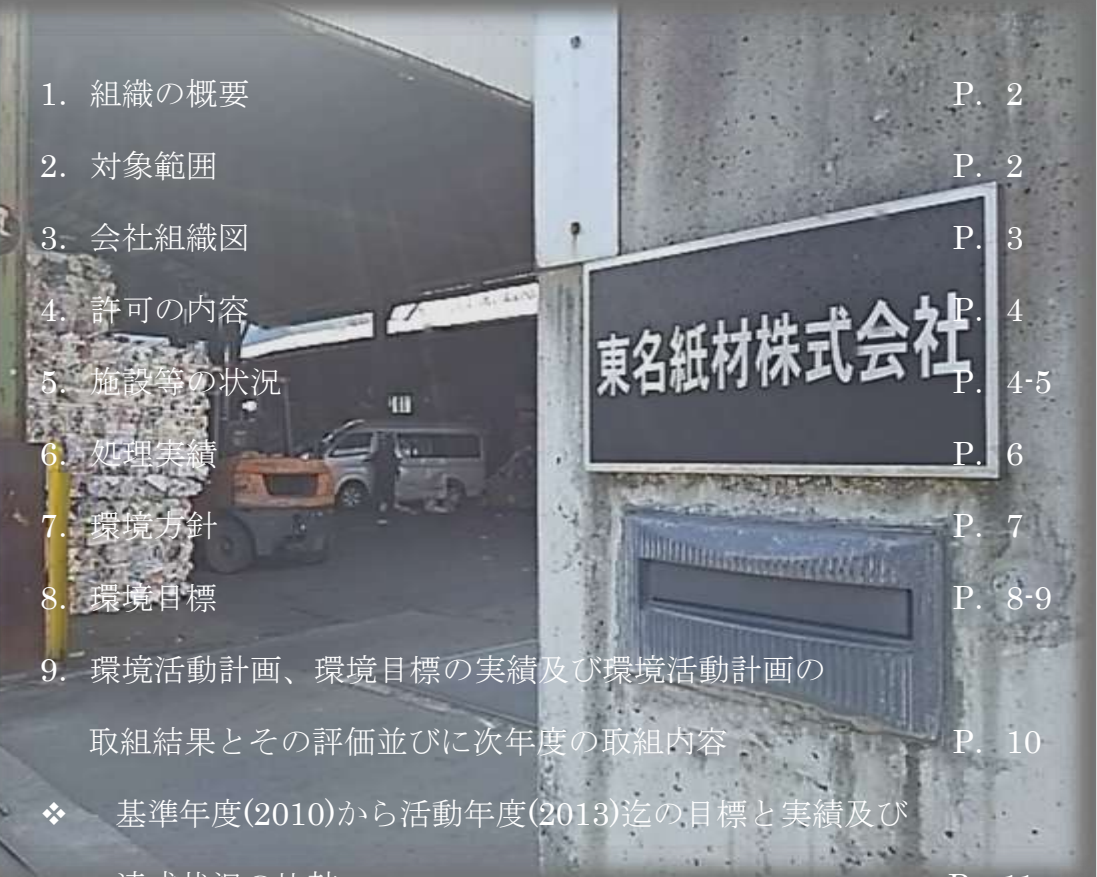


エコアクション 21 環境活動レポート

(2014年1月～2014年12月)

- 
- | | |
|--|----------|
| 1. 組織の概要 | P. 2 |
| 2. 対象範囲 | P. 2 |
| 3. 会社組織図 | P. 3 |
| 4. 許可の内容 | P. 4 |
| 5. 施設等の状況 | P. 4-5 |
| 6. 処理実績 | P. 6 |
| 7. 環境方針 | P. 7 |
| 8. 環境目標 | P. 8-9 |
| 9. 環境活動計画、環境目標の実績及び環境活動計画の
取組結果とその評価並びに次年度の取組内容 | P. 10 |
| ❖ 基準年度(2010)から活動年度(2013)迄の目標と実績及び
達成状況の比較 | P. 11 |
| ❖ 環境活動の実績と成果の変遷の視覚化 | P. 12 |
| 10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果
並びに違反、訴訟等の有無 | P. 13-14 |
| 11. 代表者による全体評価と見直しの結果 | P. 15-16 |

作成:2015年5月23日

東名紙材株式会社





TOMEI
SHIZAI



Recycle
再生



Gather
収集

Recycle
&
Ecology

リサイクル&エコロジー



Transport
運搬



Packing
梱包

東名紙材株式会社

〒254-0016

神奈川県平塚市東八幡 3-16-7

TEL:0463-22-5650

FAX:0463-22-0121

E-mail:toumei-sizai@sound.ocn.ne.jp

1. 組織の概要

(1)事業所名及び代表者名

東名紙材株式会社

代表取締役 神谷 史朗

(2)所在地

認証・登録範囲：神奈川県平塚市東八幡3丁目16番7号

(3)環境管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者 総務 倉橋 英孝

連絡先電話 0463-22-5650

FAX 0463-22-0121

E-mail toumei-sizai@sound.ocn.ne.jp

(4)法人設立年月日

昭和42年3月29日

(5)資本金

1,000万円

(6)事業活動の内容

古紙問屋

古紙の回収・計量・圧縮梱包・製紙会社へ出荷

(7)事業の規模

活動規模	単位	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
従業員	人	13	12	12	12	12
床面積	m ²	1,492	1,492	1,492	1,492	1,492

2. 対象範囲

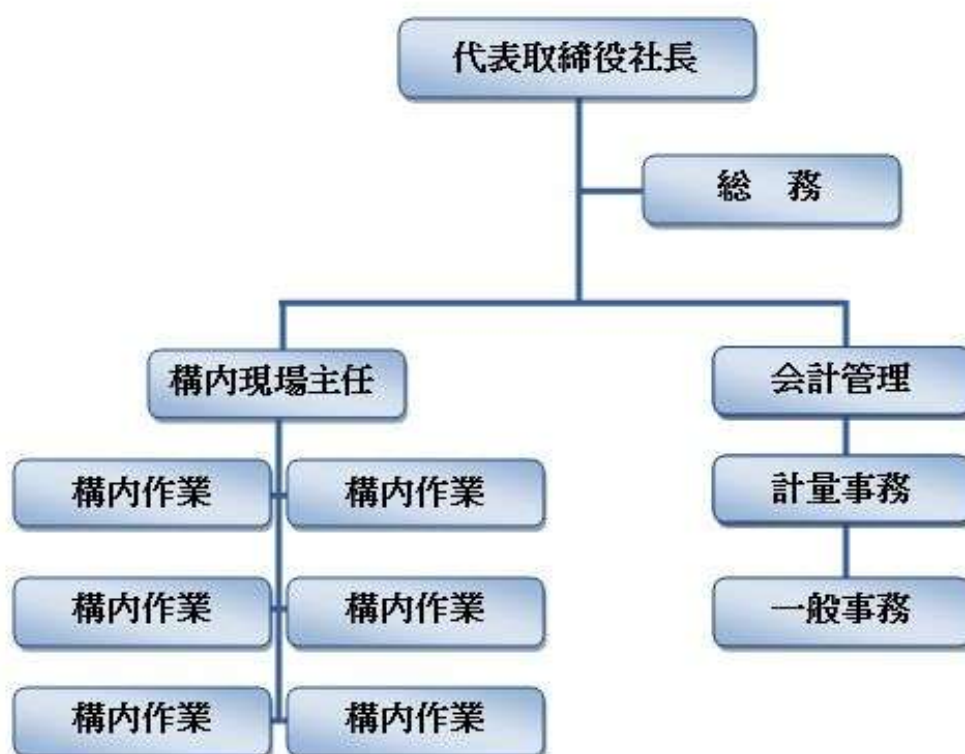
(1)認証・登録対象組織

東名紙材株式会社（所在地は1.（2））

(2)認証・登録対象活動

東名紙材株式会社事業所構内で行う事業活動（搬入古紙の計量、圧縮梱包、出荷）

3. 会社組織図



= 東名紙材(株)組織表 =		従業員数:12名
役割	業務内容	人数他
代表取締役	代表取締役社長	
総務	会社業務全般 窓口業務 事務所管理 環境管理責任者	
会計管理	現金管理 現金出納帳管理	1名
計量事務	古紙搬入車両計量 計量伝票発行 電話対応	1名
一般事務	各種書類作成 振込作業 物資注文 電話対応	1名
構内現場主任	構内業務管理 構内作業指示	※構内作業含む
構内作業	古紙選別 古紙運搬 引取り	6名※段ボール3名、新聞・雑誌3名

4. 許可の内容

一般廃棄物処理施設設置許可			
許可年月日	平成 23 年 3 月 3 日	許可番号	湘セ第 29301 号
取扱う廃棄物の種類	古紙		
施設の種類・処理能力及び数量	古紙の圧縮梱包機 2 基 (段ボール：18～20t/H、新聞・雑誌：20～22t/H)		
営業時間（施設稼働時間）	8：00～17：00 の内 8 時間		
処分後残さの処理方法	ビニールひも 廃プラスチックとして売却		
事業計画概要 施設の設置場所	設置場所	神奈川県平塚市東八幡三丁目 1300-5,1300-6,1301-1	
	事業敷地の全体面積	1,795.25 m ²	
	用途地域及び地目	工業地域, 宅地	
	土地所有の区分	①自己所有：1,492.25 m ² (1301-1) ②借地：303.00 m ² (1300-5、1300-6)	
	計画地及び周辺地域の状況	北、東、南側は工場、西側は住宅（平塚ニューライフ団地）	
	搬入路の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・東側産業道路（通称テクノロード）は幅員約 15m、北側市道は幅員約 8m。 ・付近には、八幡小学校及び神明中学校の通学路があるが、申請地及び出入口に接する通学はない。（通学時間帯の搬出入は行わないようにする。） 	

5. 施設等の状況

①中間処理施設の種類、能力及び方式等

施設の種類	処理の方式（型式等）	処理能力（t 又は m ³ /日）	設置数	処理対象の廃棄物
圧縮梱包機 （1号機）	古紙を圧縮・キューブ化 金属ワイヤーで結束 LB-2000-SN 特型	150.4t/日 (段ボールで換算)	1	古紙
圧縮梱包機 （2号機）	古紙を圧縮・キューブ化 金属ワイヤーで結束 LB-2000-SN 特型	156.8t/日 (雑誌で換算)	1	古紙

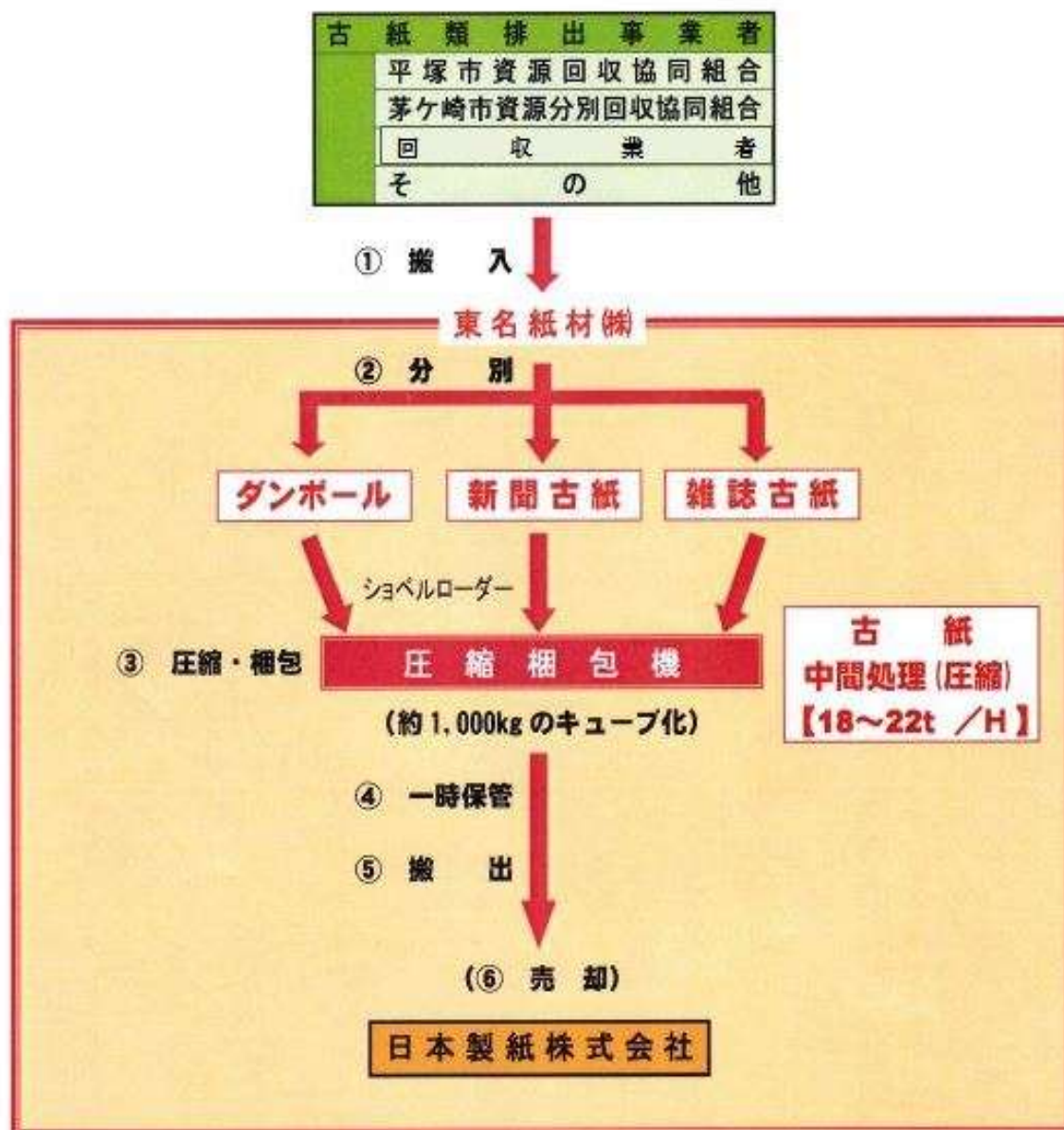
②運搬施設

種類及びメーカー名	ショベルローダー (トヨタ)	フォークリフト (トヨタ)	トラック (いすゞ自動車)
最大積載量	2.15t	1.7t~3t	2t、4t
数量	2台	3台	2台

③処理工程図

処理工程フロー図 (概要)

(古紙)



6. 処理実績

①環境への負荷状況 2012年度～2014年度（古紙の処理量3年間）

環境への負荷		単位	2012年	2013年	2014年	
古紙の処理量	収集運搬量	t				
	古紙購入量	t	22,170	20,327	20,396	
	古紙再資源化量(売却)	t	22,076	20,613	20,508	
	最終処分量	t				
	古紙処理後の産廃の処分量	t	34.13	35.10	30.93	
	中間処理後の産廃の再資源化等量	t				
廃棄物排出量及び 廃棄物最終処分量	一般廃棄物	焼却(回収業者へ委託)	t	0.2013	0.2012	0.1579
		最終処分量	t			
	産業廃棄物	最終処分量 (業者へ委託)	t	34.13	35.10	30.93

②古紙の処理量（2014年1月～12月）

処理法等	古紙の種類等		処分方法等	処理量(t)
収集運搬				
収集運搬量合計				0
古紙購入	段ボール古紙	選別・圧縮・梱包		7,460
	雑誌古紙			4,599
	新聞古紙			8,338
古紙再資源化	段ボール古紙	古紙の売却 (製紙会社へ出荷)		7,499
	雑誌古紙			4,725
	新聞古紙			8,285
	再資源化等量小計			20,508
古紙の処理合計				20,396
古紙選別 処理後の 産業廃棄物	最終処分	混合廃プラ	処理業者に委託	30.93
	再資源化等			
		再資源化等量小計		0
中間処理後処分量合計				30.93

環 境 方 針

1. 環境理念

当社は、地球環境の保全を最重要課題と認識し、古紙問屋としての事業活動を通して「人に優しい・地球に優しい事業所作り」をモットーにし、地球環境・地域環境に優しい社会の実現に貢献出来る業務体系の構築を目指します。

2. 行動指針

当社は、以下の通り行動方針を定め、当社の事業活動において生じる環境負荷の削減に努めます。

1. 事業活動による電力・軽油の使用量低減に取り組み、二酸化炭素排出量の削減に努める。
2. 構内での業務活動に伴う上水使用量を削減する。
3. 事務所から排出される事業系一般廃棄物が増えない様に管理する。
4. 古紙混在物のリサイクルを推進する。
5. 古紙出荷量の拡大を図る。
6. グリーン購入の拡大を図る。
7. 弊社の事業活動に関連する環境法規を遵守する。
8. 環境活動の一環として、構内外の清掃に努め、近隣住民との調和を図る。
9. 環境方針を全従業員に周知し、社外にも公表する。

制定日： 2013年6月11日

東名紙材株式会社

代表取締役社長 神谷史朗

8. 環境目標-----①活動年度目標と次年度目標

環境目標		年度目標策定基準	年度目標	年度実績と次年度目標	
		2012年度	2014年度	年度実績 (2014年度)	次年度目標 (2015年度)
1	二酸化炭素排出量の削減	149,287 kg-CO ₂	0.4%削減 148,690 kg-CO ₂	146,430 kg-CO ₂	0.5%削減 148,541 kg-CO ₂
1-1	電力使用量削減	226,923 kWh (94,854 kg-CO ₂)	0.4%削減 226,015 kWh (94,474 kg-CO ₂)	216,467 kWh (90,483 kg-CO ₂)	0.5%削減 225,788 kWh (94,380 kg-CO ₂)
1-2	軽油消費量削減	17,393L (45,645 kg-CO ₂)	0.4%削減 17,323L (45,462 kg-CO ₂)	18,509L (48,574 kg-CO ₂)	0.5%削減 17,306L (45,417 kg-CO ₂)
2	水資源投入量削減 (上水使用量)	790m ³	0.15%削減 789m ³	835m ³	0.15%削減 789m ³
3	事業系一般廃棄物の管理	201.7kg (ゴミ袋 117)	120袋以内/年 (1回3袋以内)	157.8kg (ゴミ袋 116/年)	120袋以内/年 (1回3袋以内)
4	古紙混在物のリサイクル促進	—	1社訪問 (資料収集等)	未実施	1社訪問 (資料収集等)
5	環境配慮製品 (or サービス) 出荷量	100 (2012年度出荷量を100とする)	0.15%増加 100.15	93	0.2%増加 100.2
6	グリーン購入拡大	グリーン化率 69.7%	グリーン化率 71%	グリーン化率 81%	グリーン化率 72%
7	地域の環境配慮 (近隣住民との調和)	工場周辺清掃 150回/年	最低必要目標回数 150回/年	365回/年	最低必要目標回数 200回/年以上

※目標項目3のゴミ袋は、毎回同型・同サイズを使用。

※目標項目6の目標策定値は、2012年度の出荷量を100として策定しています。

※目標項目4は、2013年度の環境目標見直しにより、廃棄物最終処分量削減から変更しました。

※電力使用による二酸化炭素排出係数は 0.418kg-CO₂/kWh

8-2. 環境目標-----②中長期目標

環境目標		目標策定基準	中長期目標		
		2012年度実績	2015年度	2016年度	2017年度
1	二酸化炭素排出量の削減	149,287 kg-CO ₂	0.5%削減 148,541 kg-CO ₂	0.6%削減 148,391 kg-CO ₂	0.7%削減 148,242 kg-CO ₂
1-1	電力使用量削減	226,923 kWh (94,854 kg-CO ₂)	0.5%削減 225,788 kWh (94,380 kg-CO ₂)	0.6%削減 225,561 kWh (94,285 kg-CO ₂)	0.7%削減 225,335 kWh (94,190 kg-CO ₂)
1-2	軽油消費量削減	17,393L (45,645 kg-CO ₂)	0.5%削減 17,306L (45,417 kg-CO ₂)	0.6%削減 17,289L (45,371 kg-CO ₂)	0.7%削減 17,271L (45,325 kg-CO ₂)
2	水資源投入量削減 (上水使用量)	790m ³	0.15%削減 789m ³	0.15%削減 789m ³	0.15%削減 789m ³
3	事業系一般廃棄物の管理	201.7kg (ゴミ袋 117)	120 袋以内/年 (1 回 3 袋以内)	120 袋以内/年 (1 回 3 袋以内)	120 袋以内/年 (1 回 3 袋以内)
4	古紙混在物の リサイクル促進	—	1 社訪問 (資料収集等)	1 社訪問 (資料収集等)	1 社訪問 (資料収集等)
5	環境配慮製品 (or サービス) 出荷量	100 (2012 年度出荷 量を 100 とする)	0.2%増加 100.2	0.25%増加 100.25	0.3%増加 100.3
6	グリーン購入拡大	グリーン化率 69.7%	グリーン化率 72%	グリーン化率 73%	グリーン化率 74%
7	地域の環境配慮 (近隣住民との調和)	150 回/年	200 回/年以上	200 回/年以上	200 回/年以上

※電力使用による二酸化炭素排出係数は 0.418kg-CO₂/kWh

9. 環境活動計画、環境目標の実績、取組結果とその評価及び次年度の取組内容

環境活動計画		取組結果とその評価 (2013年1月~12月)			
		環境目標 (基準:2012年)	実績	達成状況 (%)	結果評価と次年度の取組内容
1 CO ₂ 削減	①電力使用量削減 ・梱包機・コンベアスイッチ管理 ・構内照明スイッチ管理 ・事務所内照明管理 ・エアコンフィルター掃除 ・事務所内エアコン温度管理	0.4%削減 226,015 kWh (94,474kg-CO ₂)	216,467 kWh (90,483 kg-CO ₂)	○ 104.40	構内、事務所其々の持ち場で各自積極的に取組、目標達成。次年度も引き続き同計画の取組に励む。
	②車燃料(軽油)使用量削減 ・重機、社用車アイドリングストップ ・重機、社用車急発進・急加速禁止 ・引取車のルートメータ記録 ・引取車タイヤ空気圧チェック ・引取先での作業時間チェック	0.4%削減 17,323L (45,462 kg-CO ₂)	18,509L (48,574 kg-CO ₂)	△ 93.60	構内重機、社用車(引取用)のエコドライブを徹底管理出来た。しかし、今年度は、引き取り回数増加と、残業増加の影響で、残念な結果となってしまった。可能な限り、効率の良い作業の流れを作り、残業減少を目標に努力する。取組内容は現行のまま続行する。
2. 水使用量削減 ・トイレの水量調節 ・構内の蛇口の点検 ・構内散水回数の管理と記録		0.15%削減 789m ³	835m ³	△ 94.50	2012年度迄の地道な取組の励行で、好結果を出す事が出来たが、同様の取組では、これ以上の削減を期待出来ない。目標を現状維持に変更する。
3. 事業系一般廃棄物の管理 ・週1回ゴミ排出時計量 ・1回のゴミ袋数を3袋迄とする		120袋以内/年	116袋/年	○	1回に排出するゴミ袋の数を一定に保つ事により、ゴミの量の増加を抑制する事が出来た。今後も現行の取組を続行する。
4. 古紙混在物のリサイクル促進 ・資料収集の為、関連会社訪問		1社訪問	未実施	×	「廃棄物最終処分量削減」から変更された目標で、現状では模索段階である。
5. 環境配慮製品出荷量増 古紙出荷量増 ・主要3品目(段ボール、新聞、雑誌)の出荷量増加		0.15%増加 100.15 (2012年を100)	93	△ 93.0	日本及び世界経済の低迷で、製紙メーカーが紙の減産をした為に、古紙の発生も減少した結果、出荷量を増加させる事が出来なかった。営業活動や、構内での搬入業者へのサービスに尽力する。
6. グリーン購入の拡大 ・カタログでグリーン商品確認		71%	81%	◎ 114.27	事業活動で使用する物品の多くをカタログの、グリーン商品を最優先して購入。次年度も同様にカタログチェックを徹底する。
7. 地域の環境配慮 (工場周辺清掃)		工場周辺清掃 150回/年 ※約300回	365回/年	◎ 181.67	毎週1回早朝の基本活動に加えて、日曜を除いた終業時に1名が工場周辺の紙の飛散状況をチェック、回収。次年度も同様の活動に努める。

※達成状況 ◎:110%以上 ○:100%以上110%未満 △:90%以上100%未満(5についてのみ80%以上100%未満)

▼:80%以上90%未満 ×:未実施 ※3と4に関しては、達成状況を数値化しない。

❖ 2011年度から活動年度(2014年度)迄の環境目標と実績

目標項目	設定目標		実績	達成率(%)
二酸化炭素排出量削減 (kg-CO ₂)	2011年度	177,688	156,399	111.9
	2012年度	176,786	149,287	115.7
	2013年度	148,839	144,754	102.82
	2014年度	148,690	146,430	101.50
電気使用量削減 (kWh)	2011年度	262,612	234,913	110.5
	2012年度	261,279	226,923	113.2
	2013年度	226,242	217,638	103.95
	2014年度	226,015	216,467	104.40
軽油消費量削減 (L)	2011年度	23,067	18,937	117.9
	2012年度	22,950	17,393	124.2
	2013年度	17,341	17,197	100.84
	2014年度	17,323	18,509	93.60
上水使用量削減 (m ³)	2011年度	1,263	1,007	120.2
	2012年度	1,256	790	137.1
	2013年度	789.21	885	89.20
	2014年度	789	835	94.50
事業系一般廃棄物の監視 (事務所内ゴミ排出量管理) (袋数)	2011年度	—	—	—
	2012年度	—	117	—
	2013年度	120以下	115	—
	2014年度	120以下	116	—
古紙出荷量拡大 (t)	2011年度	101.5	91.9	90.6
	2012年度	102	85.9	84.2
	2013年度	100.1	93.4	93.3
	2014年度	100.15	93	93.0
グリーン購入拡大 (%)	2011年度	35	71.7	208.4
	2012年度	40	69.7	174.2
	2013年度	70	68	96.8
	2014年度	71	81.0	114.27
工場周辺清掃 (回/年)	2011年度	55	45	81.8
	2012年度	55以上	150	272.7
	2013年度	150	352	234.6
	2014年度	150	365	243.3

※電力使用による二酸化炭素排出係数は **0.418kg-CO₂/kWh**

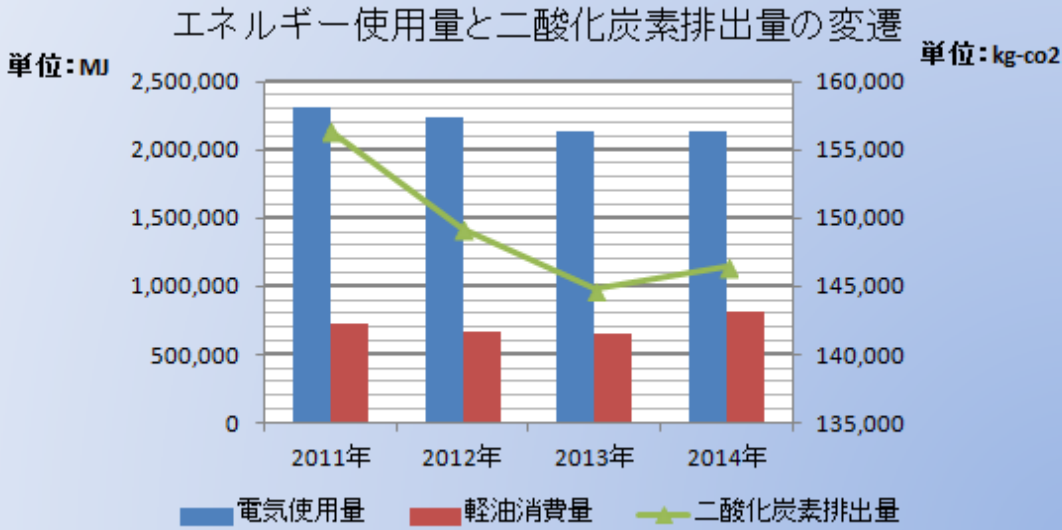
※斜体は未達成

※古紙出荷量拡大の目標値は、基準年度実績を100として策定しています。

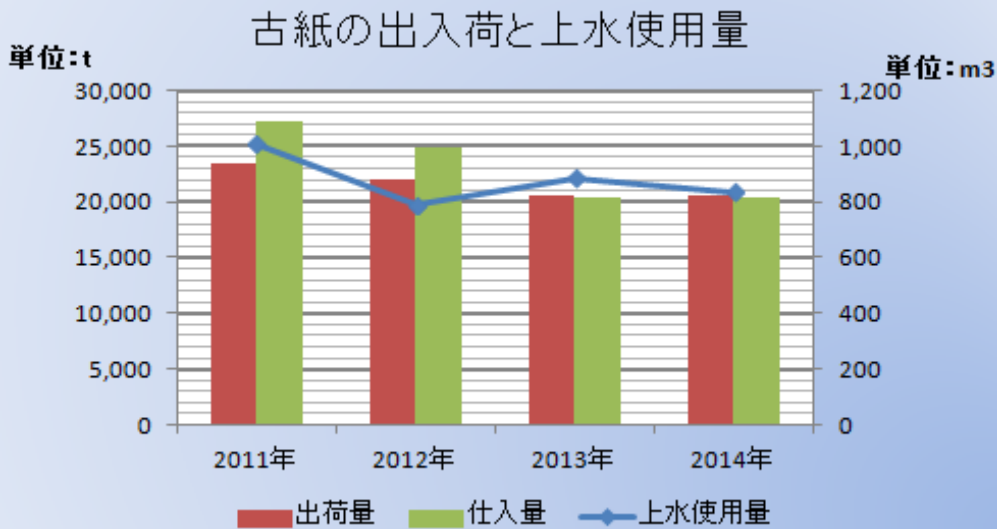
※2011年度~1012年度の目標策定基準：2009年度実績 2013年度の目標策定基準：2012年度実績

※事業系一般廃棄物の監視は、2012年度より把握開始。達成率は現段階では数値化しない

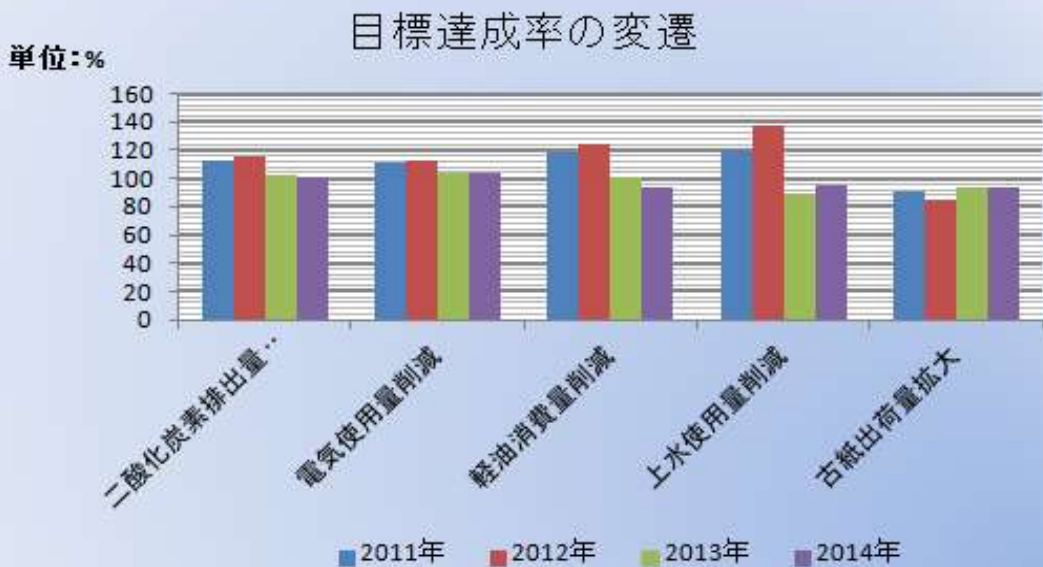
❖環境活動の実績と成果の変遷の視覚化



活動開始から今年度まで、順調に目標を達成して来た。今年度は、軽油の削減目標が未達成であったが、電力削減目標達成などにより、総計では、目標達成出来た。軽油消費は、引取りと残業の増加が影響した。電力削減に関しても、地道な活動のみでは、次第に厳しくなっていくと思われる。



古紙を圧縮梱包する際に、水がかかるが、古紙の出入荷と水使用量の記録を比較して見ると、両者の増減は、必ずしも比例していない事が判る。水使用量に少なからず、影響を与えていると思われる要因に、天候・気象状態が挙げられる。構内古紙の増減と、気象状態との関係性が水使用量に影響していると思われる。



削減目標達成に関しては、全ての項目で、2012年度が最大値を記録している。設備投資無しでの地道な取組での削減には、限界がある。今後は、新たなアイデアが提案される事を期待しつつ、次年度以降の結果次第で、項目によっては、目標値を据え置きにする事も検討。

10. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適応される主な環境関連法規等は次のとおりである。

❖ 廃棄物処理法

要求事項	適用
廃棄物再生事業者登録 法 20 条の 2 第 1 項	a 古紙の再生：神奈川県公立学校との 売買契約
事業者は運搬、処分業者と書面による委託契約をする。 法 12 条第 4 項、令 6 条の 2、12 条の 2 第 4 項	b 委託契約書の保存期間は 5 年
事業者は廃棄物保管基準（掲示板 60cm×60cm 以上の立て札等）を遵守。 法 12 条第 2 項、則 8 条	c 置き場の点検
事業者は、産業廃棄物収集運搬処分業者に産業廃棄物を委託する時は産業 廃棄物の引渡と同時にマニフェストを交付し、運搬又は処分の終了を確認 し、5 年間保管。法 12 条の 3～第 12 条の 5、令第 8 条の 19～第 8 条の 38	d1 産業廃棄物管理表の起票、回収、 保管。保管期間は 5 年 d2 産業廃棄物管理票交付状況報告書 年 1 回神奈川県知事に提出

❖ ※※平塚市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理に関する条例、規則

要求事項	適用
事業系一般廃棄物の処理施設への受入れには市長の届出が必要。 条例 21、28 条	e 回収業者岡田商事に委託 (2012 年 6 月より開始)
市長の指定する処理施設へ直接搬入する時は、指定の受付簿への記入が必要である。 規則 10 条 (4)	

❖ 消 防 法 (平塚市火災予防条例他)

要求事項	適用
消防用設備等の設置及び維持。法 17 条	f 自動火災報知機設置済 強化液消火器、粉末消火器設置
指定可燃物(仕入れた古紙 1 t ×100 倍以上) 条例 37 条の 2 別表 8 (条例の表現：紙くず)	g 最大貯蔵量=300 t ※200t→300t 修正(2014/2)
少量危険物又は指定可燃物を貯蔵し、又は取り扱おうとする者は、あらか じめその旨を消防署に届出をする。 法 9 条の 4 指定数量の 5 分の 1 以上指定数量未満の危険物の貯蔵及び取り扱い。 第 4 類 第 4 石油類(作動油 最大 4400L) 条例 33 条の 2(1)	h 少量危険物=2,200L×2 機
高压又は特別高压の変電設備を設置しようとする者は、その旨を消防長に 届出をする。法第 9 条、市条例第 47 条	i 全出力=174KW

❖遵守状況の確認評価表

評価者：環境管理責任者

評価月日： H/27/4/13

適用項目	点検・実施	担当	届出・報告	遵守評価	
				証拠	判定
a		代表	○	許可証 契約書	○
b	保管書類確認 1回/年	総務		契約書	○
c	置き場の点検 掲示板の破損の有無確認 毎月末	工場主任		置き場の確認 破損有無	○
d1	マニフェスト新規交付時 月末、年末整理	総務		マニフェスト	○
d2	産業廃棄物管理票交付状況報 告書 神奈川県知事に提出	総務	○	年1回提出	○
e	毎週火曜日 委託業者による回収	総務		契約書	○
f	・業者による定期点検 2回/年	工場主任 総務	○	報告書	○
g	毎月末棚卸時	工場主任 総務	○	記録書	○
h	チェック管理表による点検 1回/日（項目により週、月）	工場主任 総務	○	事故の有無	○
i	チェック管理表による点検 1回/日（項目により週、月）	工場主任 総務	○	事故の有無	○

❖違反・訴訟の有無

環境関連法規等の遵守状況を確認し、評価した結果、2014年度活動期間において、関係当局よりの環境関連法規等への違反、訴訟等はありません。

(1) 全体評価

2014年度の環境経営システム運用期間を通して、環境目標の達成状況、活動計画の実施及び環境法規の遵守状況から判断すると、環境方針に掲げた環境活動は概ね実施出来たと言える。

しかしながら、現在の日本・世界経済低迷の影響下で、古紙出荷量拡大など、目標達成が困難な項目もあり、また、地道な取り組み続行のみでは、好結果を期待出来なくなって来る活動もある。それ故、次年度は、難しい目標に関しては目標策定値を下げ、現行の取り組みを続行しながら、新たな取り組み方法のアイデアが出る事を期待したい。環境経営システム、環境目標、環境方針は、変更しない。

(2) 見直しの結果

環境方針に掲げた目標項目の順に見直した結果は下記の通りである。

- ① 二酸化炭素排出量では、電力、軽油共に従業員各自積極的に取組を励行したが、目標を達成出来たのは、電力のみであった。軽油未達成の要因としては、引き取りと、残業の増加が挙げられる。
次年度は、構内での効率の良い作業の流れを作れるよう、指示を出した。
- ② 上水使用量では、活動開始年度から地道な取組を励行して来たが、昨年度と今年度の結果をから、現行の取組方では削減目標値を下げ続ける事に、無理があると、判断し、次年度は、削減目標を変更せず、今年度と同じ目標設定をし、次年度の結果次第では、次年度以降も目標を据え置きにする。
- ③ 事業系一般廃棄物の管理は、事務所内業務に負担の掛からない範囲で、事務所から排出されるゴミの量を増加させない様にする取り組みで、ゴミ袋使用数を制限し、排出時袋数、袋毎の計量と年間の使用量記録把握のみの取組方である。事務仕事に支障が無い程度の管理を次年度も続行する。
- ④ 古紙混在物のリサイクル推進は、2012度迄の環境活動「廃棄物最終処分量削減」の結果を受けて、2013年度の見直し、是正により、変更になった活動項目で、現段階では、具体的な活動方法の詳細は、固められておらず、情報収集のみの活動計画になっている。今後の活動内容や、取り組み手段は模索中であり、評価対象には至っていないのが現状である。次年度も、関係業者等から聞き込み調査などの情報収集の機会を設けたい。

⑤古紙業界の厳しい現状の影響で、昨年に続き出荷量増加目標は未達成という残念な結果であった。

日本及び世界経済の低迷の影響により、製紙会社が紙を減産した結果、企業・一般家庭から排出される古紙量が減少し、出荷量も伸ばす事が出来なかった。古紙業界全体の厳しい現状の中、出荷量増加目標達成は、古紙問屋にとって、一層困難になりつつある。営業体制、構内でのきめ細かいお客様サービスを強化するなど全従業員一丸となって、目標達成に向けて尽力する。

⑥グリーン購入に関しては、専用カタログを使用し、事務用品や、事業活動に必要な物品を購入する際に、グリーン商品を最優先に選択し、購入する様にした結果、目標を達成する事が出来た。次年度も、現行の取り組みを続行する。

⑦エコアクション 21 を構築し、システム運営するに当たり、該当する環境法規を確認する事で、適用事項が明確になり、取組が必要な対象(消防法、廃棄物処理法)を具体的に把握出来た。今後、更新情報の収集に努める。

⑧構内外の清掃では、工場周辺の清掃に力を入れ、計画日以外でも、強風や、積雪などにより急遽清掃の必要が生じた場合などは構内作業者が各自積極的に取り組む姿勢が見られた。天候や、作業現場の状況により、構外清掃時間の調整をするなどの工夫をし、早朝の基本活動に加えた、終業時の近隣巡回も定着し、日常業務の一つとして習慣化出来ている。次年度も引き続き同様の取り組みを続行する。



2014 年度環境活動レポート

発行日 2015年5月23日

作成/発行 東名紙材株式会社